# 「子供に外遊びを！」PartⅡ　ひとつの流域にひとつの図鑑

福田道路㈱　　正会員　　北添　慎吾

## 1．はじめに　　ひとつの流域にひとつの図鑑をつくろう！

「自分が住んでいる地域の川に、どんな生き物が棲息しているか知っていますか？」と聞かれたら、「まさか、コンクリートで固められたこんな川に･･･」と、まったく関心のない方がほとんどではないでしょうか。一部の地域では「水辺の楽校」の設置や「川遊びの活動」が盛んな所もありますが、ほとんどの地域において人と川とのつながりが途絶え、子供たちの外遊び環境の引き出しは、少ないままの状態です。

今回は、長崎県波佐見町で実施した「**身近な自然**を知ることで、子供の遊び環境の引き出しを増やしていきたい」という思いで取り組んだ、「ひとつの流域にひとつの図鑑をつくろう」という活動を紹介する。

## 2．地域の活動（シーボルトの川づくり塾）に参加

２００９年に参加させていただいた、シーボルトの川づくり塾で「子供たちを川に呼び戻すにはどうすればよいか？」という課題に対して、まず「**地域の川図鑑**があったらいいな」という意見が出され、国交省直轄工事の地域貢献活動のひとつとして、私が図鑑作成の企画及び編集を実施することになった。

## 3．実践「身近にある、地域の川図鑑をつくろう！」

### 3-1．課題を設定

**①子供たちの興味を惹き付ける**

単純に生き物の紹介だけでは、子供たちの興味を惹きつけることができない。

**②発見する喜びを大切にする。**

子供自らの意志と好奇心によって**発見する喜び**や驚きがないと一過性に終わってしまう。

**③遊びを通して環境の本質を知る。**

川遊びの経験を通して、流域の環境を守るために、正しい知識と考える力を身につけてもらう。

### 3-2．課題を解決するための創意工夫

**①表紙の工夫と川での活動の紹介**

シーボルトの知名度を利用し、恒例の魚の手づかみ大会・手作りビオトープ等のイベントを紹介する。

**②地域のお宝を探せ**

希少種を紹介することで、宝探しの要素を取り入れるとともに種を守ることの大切さを知る。

**③図鑑の監修と専門家のコラムを掲載（専門家の存在が大きな支えに）**

**専門家（九大中島氏）の協力**により、監修に加え河川環境を守ることの本質をコラムとして掲載する。

写真－１(①表紙)

写真-２（①活動の紹介）

写真-３（②お宝）

写真-４（③コラム）

キーワード　身近な自然、地域の川図鑑、発見する喜び、専門家の協力、流域、知的な遊び

連絡先　〒556-0011　大阪市浪速区難波中３丁目９番１号　　福田道路㈱　関西支店　TEL06-6649-1389

### ３-３．図鑑作成時の問題点とその対応策

**①　写真の精度が低い**

【問題点】：写真の専門家が不在であったことに加え、採取した生きものを健康な状態でリリースすることを優先させたために、精度の高い写真が残せない状態が続いた。

【対応策】：魚取りイベントに加え、地域の有志の協力を得て採取回数を増やすことで対応した。

**②肖像権の問題**

【問題点】：デジカメの普及により、各地で肖像権の問題が発生しており、注意が必要であった。

【対応策】：事務局の方と、何度も事前調整（試作データから製本の見本まで）をしながら作成した。

**③作成資金と配布先及び配布枚数の選択**

【問題点】：請負工事のイメージアップ費用（予算１５万円）で、いかに効果のある配布ができるか。

【対応策】：印刷業者に対する単価交渉で最大限の協力を得るとともに、関連する各学校・各自治体に数を決めて配布（２５０部）して、配布先の反応と使用実績に応じて増刷することにした。

**④資料収集の問題**

【問題点】：関係者のほとんどが多忙な業務を抱えており、資料収集と情報交換が困難であった。

【対応策】：企画編集者と事務局の役割を明確にし、メールを最大限利用して効率化を図った。

## ４．「図鑑作成」の効果

### ４－１　これまでの活動を記録

地域（波佐見・水と緑を考える会）の活動記録を１冊にまとめて、残すことができた。

### ４－２　新たな活動の起点

学校の先生等に配布されることで教材として利用することや、今回掲載することができなかった生きものを探すという新たな活動の起点となることができた。

### ４－３　建設会社と地域がつながるひとつの事例

負のイメージに悩む建設会社が実施する地域貢献のひとつの事例として、国や工事関係者に今回の（地域外のよそ者だからこそできる）活動を提案することができた。

## ５．今後の課題

様々な人を巻き込み、「ひとつの流域にひとつの図鑑」で、新しい外遊びの世界を！

今後は、微力ながら以下の課題を取り入れた活動を実施していきたい。

### ５－１　まずは、大人の心をゆさぶる。

「流域」（河川だけでなく、小川・池・水路・水田を含める）という意識や感覚がない地域へと展開していくことで、自然遊びが好きな人材を発掘して地域の核となるようなリーダーを育てていきたい。

### ５－２　自然系ミュージアム等と連携して、川遊びを「知的」な遊びに！

遊びの経験が知識となり、学ぶことが遊びになるよう、子供たちの経験と知識の幅を広げていきたい。

### ５－３　大学・高専等と連携して、土木系の学生を巻き込む。

経験に裏打ちされていない知識は身に付かない。土木系の学生をフィールドワークに巻き込むことで、工学に加え地学･生物学そして生態系から遺伝子まで､多様な経験と知識を持つ土木技術者を育てていきたい。

### ５－４　地域に伝わる歴史や伝説を取り入れる。

地域に伝わる歴史（化石・遺跡・地質・水利用・災害等）・伝説（お化け・カッパ・水神等）を引用して、子供たちを現実とファンタジー(空想)が入り混じった世界に導いて､様々な想像力を引き出していきたい。

### ５－５　世代間・地域間のギャップを考慮する。

人は、誕生時から普通に存在する物に対してはあまり興味がない事、未体験なものは理解しにくい事等、社会環境の変化や生活地域によって､自然環境に対する感じ方･考え方に違いがある。したがって､世代間･地域間のギャップを考慮した上で、新しい外遊びの世界をつくりだす工夫や機会を提案していきたい。

【協力】（有）田崎工務店田崎氏、九州大学中島氏・島谷氏、　波佐見・緑と水を考える会のみなさん